



輝きなんせ鳥取

KINANSE TOTTORI

公園前の
小さな本屋
みつけどり



みつけどりにて



女性チャレンジ支援賞授賞伝達式の様子

女性チャレンジ支援賞

— 目次 —

- 輝ひとく女と男ひとにインタビュー ……2P~3P
- 「輝ひとなんせ鳥取」NEWS ……4P~5P
- 女性チャレンジ支援賞受賞 ……5P
- 今後の輝ひとなんせ鳥取講座紹介 ……6P

ひとひと 輝く女と男にインタビュー

静かな住宅街の公園前、おとぎ話の中に迷い込んだような可愛らしい小さな本屋さんへ取材に行ってきました。

お店のドアを開くと、4,000冊以上の子ども本と、絵本に登場するぬいぐるみたちに出迎えられ、子どももおとなも、その魅力的な空間のとりこになってしまいそうな本屋さんでした。



公園前の小さな本屋みつけどり店主 たのうえ のぶこ 田上 伸子さんインタビュー



◎ 起業のきっかけ

もともとは、学校図書館司書をしていましたが、退職の年度が近くなってきたとき、まだまだ子どもの本とかかわり続けたい、子どもの文化を普及できるような仕事を続けたいと思い、どこか勤め先はないかと探していました。ですが、なかなか思うような仕事がなく、考え方を変え、雇ってもらうことばかり考えないで、自分で起業すればいいのでは！と、決意しました。

◎ 「みつけどり」という名前の由来

ストーリーテリングで、初めて覚えたお話しが、グリム童話の「みつけどり」でした。その題名が、「見つける」「鳥取の鳥」と意味が合うと思い、この名前に決めました。
(※ストーリーテリングとは、おはなし会などで、語り手が物語を覚えて聞き手に語ること)



◎ 本屋を運営するうえでのこだわり

子どもが成長したいと思える、「成長できる本」、生きていることに、「幸せを感じられる本」を、わたしなりに選書してそろえています。

子育てにイライラしていても、子どもと一緒に絵本を読むと、心がどこかほっとするような絵本をそろえたいと思っています。

たまには選書に失敗することもあります。勉強しながら、成長していきたいと思っています。

以前、小学生のお子さんと来店されていたお父さんから、「ぼくはみつけどりで本を買ってから本が好きになった」と言われた時など、とても嬉しかったです。

また、2歳半くらいからずっと来ている子が、『ももたろう』（松居直・福音館書店）から始まり、『サリーのこけももつみ』（マックロスキー・岩波書店）、『たんじょうび』（フィッシャー・福音館書店）を経て、小学2年生の今は『クマのプーさん』（ミルン・岩波書店）を楽しんで読まれているという成長を知ると、とても嬉しいです。

最終的には、名作を読んでもほしいと思っているので、そういったお子さんやおとなたちが増えることを願いながら本屋をしています。



◎ ご自身の考えられている「本のある暮らし」 「児童書のある暮らし」とは

今は優れた映像作品もたくさんありますが、どちらかというと、それらを鑑賞するのは、「受動的」ではないかと考えています。けれど、「小説を読む」「絵本を読む」という行為は、「能動的」だと思います。これから社会へ出ていく子どもたちには、自分で考える力の素地を作ってほしい。小説を読むという行為は、目に見えないものを感じられる力を育てると思っています。映像は自分の速度でものを考えられません。けれど、読書は、じっくりと自分の速度で考えることができます。読書をする事で、きっと自分や他人の心のありようを想像する力が育つと思っています。

◎ 小さな講演会活動や、リトル・フリー・ライブラリーについて

本屋で講演会などを開催するようになったのは、お客さんがこういうイベントをしてほしいと言ってくれるので実現しています。お客さんのおかげで本屋を続けられています。来年は10周年イベントも考えています。

リトル・フリー・ライブラリーは、2009年にウィスコンシン州で始まった誰でも簡単に小さな図書館を始められるシステムです。現在は世界70カ国で登録者が広がっています。家の前、公園、バス停などで本の入った小さな箱を見かけたことはありませんか？誰でもいつでも借りて本を読む事ができるとも小さな図書館です。

みつけどりの店の前にも設置しています。本屋が休みの日には、その箱の中から本を借りて読んでいる人もいます。印象深かったのは、大雪の日に、リトル・フリー・ライブラリーの箱の前まで、足跡がついていたことがあって、こんな雪の日にも本を読みたいと思っている人がいるんだということに心を動かされました。



お店の前にある
リトル・フリー・ライブラリー

◎ 今後の目標

お客さん一人一人を大切にしていきたい。絵本の話しをみなさんと一緒にして、そして、子どもの本を好きな人が一人でも増えることを願って活動をしていきたいと思っています。



直接お店でお話しをお聞きし、みつけどりさんという唯一無二の子どもの本の専門店があることで、鳥取に子どもにもおとなにも開かれた、小さな心のオアシスがあると感じる、そんなあたたかなお店でした。(T.S)

* 輝なんせ鳥取 NEWS * 編集委員レポート *



講師: 来田 裕子さん
(鳥取県男女共同参画登録講師)

建築士で、整理収納アドバイザー1級など多くの資格を持ってご活躍されている来田裕子さんを講師にお迎えし、お話をお聞きしました。

忙しい毎日の中で、仕事も家庭も趣味も充実して生活するにはどうしたらいいのか頭を悩ませている人は多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

「今日もうこんな時間!」と、がっかりしてしまうこと、一度や二度ではないかもしれません。そんな生活がアップグレードする方法を、わかりやすくお話していただきました。

時間使い上手になる、7つの習慣

～ワーク・ライフ・バランス講座～

令和5年5月27日(土)
男女共同参画センター

日常的についつい「効率」を重視してしまいがちな時間への考え方を、「充実」させる考え方へ変換するヒントや、「やるべきこと」で時間に追われていた毎日が、「やりたいこと」を中心に回っていくアイデアの数々は、今日からでもすぐに生活に取り入れたいものばかりでした。その中でも、自分にあった方法を一つでも取り入れてみたら、昨日よりも少しだけ進化した自分になれ、毎日がぐっと良くなりそうな予感がしました。

時間の使い方が上手になるということは、自分の暮らし、自分の命を大切に暮らすということなのかもしれません。(T.S)



みんなで学ぶ防災実践講座 2回 知って学んで考える、私たちに出来る取り組み ～避難所運営ゲーム「HUG」を体験してみよう～

令和5年6月3日(土)
男女共同参画センター

講師: 漆原 和弘さん
(鳥取県自主防災活動アドバイザー)

「100年に一度の大雨」「これまでに経験したことのない大雨になる」といった形で呼びかけがあり、同時に「ただちに命を守る行動をとってください」という呼びかけも行われています。自然災害がいつどこで起きるかわからない状況にあります。

大規模災害が起きたら避難所にはたくさんの方が来られます。避難所運営を任せられたという想定の下で、避難所運営ゲーム「HUG」体験をしました。

地震が発生、真冬で気温は低く寒い、ライフラインは遮断され避難所は小学校の体育館です。様々な避難者が想定された約250枚のカードが読み上げられ、それに対して迅速かつ適切に対応しカード(避難者)を配置しなければなりません。タイムリミットは1時間なので1枚あたり14秒で対応しないと次に進むことが出来ません。様々な人々、様々な問題、要配慮者とは、ペットの問題、給水タンク車はどこに駐車すれば、総理大臣が見舞いに来ます。どうする! どうする! でした。瞬時に考えて対応することの難しさ、受け入れることばかりではないこと、役割を分担しながらの対応する術を学びました。

避難者として避難所運営に関わることも考えられます。避難生活にどんな難しさがあるのか、自分たちに何ができるかなど考えるきっかけづくりにいかがでしょうか。(M.O)

避難所運営ゲーム^{HUG}

- H : hinanzyo...避難所
- U : unei.....運営
- G : game.....ゲーム



講師：天坂 真理さん
(FM鳥取パーソナリティ/
鳥取市男女共同参画審議会委員)

TV局のアナウンサー、内閣府・厚生労働省で広報職を経験され、鳥取に来られてからはFM鳥取パーソナリティ、鳥取市男女共同参画審議会委員をされている天坂真理さんを講師にお迎えして、メディアリテラシーについてお話しいただきました。

メディアリテラシーとは、受信者として情報を主体的、批判的に判断することです。

世の中の出来事を発信するメディア。情報の内容が偏ったり、真偽不明で発信されたり、デマが飛び交ったり、受信者として情報を主体的批判的に

～メディア・リテラシーってなんだろう？ ジェンダーの視点からも考える～

令和5年6月18日(日)
男女共同参画センター

に判断する、情報を見極めることの大切さ、わかっているつもりでも、情報に踊らされていると感じることがあります。

また、メディアにおけるジェンダー平等については、ドラマの制作にあたってジェンダーを意識して作品の中心に置かれている作品や、背景の一部として意識して作られている作品などいろいろあるようです。最近では作り手もジェンダーを意識して製作していると思いました。

メディアリテラシーと聞いて、発信されている情報を見極めることと思っていましたが、SNSを利用してしていると、いつ自分が発信する側になるかわかりません。

誰もが情報を発信できる今、受け取り側としてだけでなく、発信する立場も考えて情報を見極める大切さを改めて感じました。

『女性チャレンジ支援賞』に鳥取市から、 産後ケアやわらかい風代表 川口映子さん選ばれました！

◎女性チャレンジ支援賞とは？

女性のチャレンジについて、積極的な支援を行い、男女共同参画社会の形成の促進に寄与したと認められる個人や団体に対し、内閣府から贈られる賞で、令和5年度は、本市より川口映子さんが選ばれました！

川口さんの受賞コメント

この度は、身に余る賞をいただき、大変光栄に存じます。

鳥取県は、全国に先駆け、「産後ケア無償化」を掲げており、本当に誇らしく思っています。しかし、一方で産後ケア施設の存在を知らない方がまだまだ多くいることが残念でなりません。

女性がもっと子どもを産みたい、と思えるような社会作りが重要と思うので、精力的に活動を行っていききたいと思います。



左：亀井 一賀 副知事
右：川口 映子 さん

※県による授賞伝達式及び受賞報告会が行われました。

川口さんの活動内容

全国初の夜泣きの母子への宿泊支援「赤ちゃん夜泣き保険すやりんこ®」や温泉を活用した「いい風呂の日」、「未来のパパ塾」、命を感じる場所「子宮のお部屋」など独自の活動を展開する。

今後の輝なんせ鳥取講座

日程	講座名	場所	講師	定員
10月28日(土) 10:00~11:30	LGBT講座 ~「パパは女子高生だった」 自分らしく生きること~	人権交流プラザ大ホール	前田 良 さん	80名
11月5日(日) 10:00~11:30	輝なんせ鳥取映画上映会 「梅切らぬバカ」	県民ふれあい会館		200名
11月18日(土) 10:00~11:30	女性のための法律講座	男女共同参画センター 研修室	法テラス鳥取 高橋 秀明 さん	30名
11月25日(土) 10:00~11:30	~夫婦でマネープラン~	男女共同参画センター 研修室	鳥取財務事務所 平野 正晃 さん	30名
12月15日(金) 13:30~15:30	暮らしの中の血流改善講座	男女共同参画センター 研修室	花王グループカスタマー マーケティング(株) 新 光代 さん	30名

どなたでもお気軽にお申し込みください。

新規購入図書

- ★『家事は大変って気づきましたか?』(阿古 真理 亜紀書房)
- ★『何のために伝えるのか?情報の正しい伝え方・受け取り方』(池上 彰 KADOKAWA)
- ★『もう振り回されるのはやめることにした』(Ryota SBクリエイティブ)
- ★『「あとから怒りがわいてくる人」のための処方箋』(戸田 久実 新星出版社)
- ★『日本に住んでる世界のひと』(金井 真紀 大和書房)
- ★『パパは女子高生だった
女の子だったパパが最高裁で逆転勝訴してつかんだ家族のカタチ』(前田 良 明石書店)
- ★『102歳、一人暮らし。哲代おばあちゃんの心も体もさびない生き方』(石井哲代・中国新聞社 文藝春秋)
- ★『おうち性教育はじめます 思春期と家族編』(フクチマミ・村瀬幸浩 KADOKAWA)
- ★『月10万円でより豊かに暮らすミニマリスト整理術』(ミニマリストTakeru クロスメディア・パブリッシング)
- ★『マンガ ぼけ日和』(矢部 太郎 かんき出版)
- ★『あなたにもある無意識の偏見 アンコンシャスバイアス』(北村 英哉 河出書房)
- ★『女の子がいる場所は』(やまじ えびね KADOKAWA)



編集後記

公園前にある小さな本屋さんからワクワクするお話をたくさん聞くと、今度孫と一緒にしてみよう。その時、どんな本を手取るのかな~と期待が膨らんでいきます。また、防災の実践講座での体験はその時々でご近所さんや自治会の顔が思い描かれます。講座に参加することで新しい発見や、思い違いにドキッとされるけれど、それもまた楽しいと思えました。(編集委員〇)

鳥取市男女共同参画センター き 「輝なんせ鳥取」

〒680-0822
鳥取県鳥取市今町二丁目151(丸由百貨店5階)
TEL / FAX (0857) 24-2704
メール: danjyo-center@city.tottori.lg.jp
鳥取市ホームページ: <http://www.city.tottori.lg.jp/>



HP



Facebook

